

兵庫の尾根、氷ノ山のふもとに
位置する養父市葛畑。かずら畑西側には
鉢伏山に連なる東鉢スキー場とうはちがあり、ハチ・ハチ北とともに冬場は関
西屈指のスキー場として賑わう。

葛畑から大野峠を越えて香美町・村岡区を結ぶルートは、奈良時代、文武天皇の頃に山陰道として制定され、古来より宿場町として栄えた。

その後、東の八井谷峠にルートが変更されたが、難所だったこともあり、迂回路として人々の往来が絶えなかったという。明治32年には路線変更により国道となり、昭和43年に但馬トンネルが開通するまで山陰の幹線として流通を支えた。交通の要衝であつた葛畑。そうした背景もあり、小さな山あいの集落にもかかわらず、文化財の数が非常に多い村としても有名だ。



天文13年(1544)に荒御霊神社境内に建てられたお堂を、大阪の歌舞伎小屋で勉強した3人の地元大工が、明治25年に芝居堂へと改修した。昭和36年には取り壊しの話も出たが、専門家の調査でその価値が見出され、昭和43年に国の重要な有形民俗文化財に指定された。民家型入母屋造りの茅葺で、歌舞伎舞台に必要な7つの機構を全て備えている。「奈落を見学すれば、運氣が上がる」とは、区長の西村さん。



葛城舞台の特色である「田楽返し」(上)は、10枚の襖を90度、180度回転させることで、背景を変えたり、奥の遠見を見せる。「ブドウ棚」(中)は背景を屋根裏に吊り上げる格納庫。地下の奈落(下)から独楽廻りに円型舞台が回転する。



願う、住民の熱い思いにより果たされた昭和と平成の復活公演の様子。舞台衣装もプロが絶賛する立派なもの。



「江戸時代は、武家の名門・山名氏が治めていたので、文化的教養が高かったことも影響しているのでは」と、区長の西村武さん。

中でも、葛畑の農村歌舞伎は代表的なもの。村のシンボルである「農村歌舞伎舞台」は、国の重要有形民俗文化財として指定され、兵庫県下に330棟もあつた農村舞台の頂点に位置づけられる重要な文化財である。

かつては各地で、雨乞い祈願や農閑期の娯楽として親しまれてきた農村歌舞伎。葛畑では江戸末期に大阪で歌舞伎を学んだ藤田甚左衛門（じんざ）が帰郷し、「葛畑座」を結成。周辺の村々でも公演を行い、昭和9年に戦争の影響で途絶えるまで盛んに行われていた。

当時は紺屋（染め物屋）が3軒あり、上紺屋が衣装、中紺屋が舞

●「T2 裏路地探険」参加募集

平成 29 年 1 月 21 日(土)
10:00~12:00
「万年酒と平家伝説ゆかりの地」
新温泉町久斗山

*上記実施日の 10 日前までに、18 ページに掲載の但馬の情報誌「T2」編集部まで、住所・氏名・年齢・電話番号・「T2 裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催当日は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切後、参加ご希望の方へ郵送にて案内を交付します。

「この舞台は使つてこそ価値がある」と話す西村さんは、葛畑座の座長も務める。昭和39年・41年の公演を経て、37年ぶりの復活公演が平成15年に行われた。同年には「せきのみや子ども歌舞伎クラブ」が発足し、その思いは但馬の子どもたちに受け継がれている。

凜として佇む農村歌舞伎舞台。芝居に歓声を上げる往時の様子を思い起こしながら、貴重な文化財にふれてみてはいかがだろう。

但馬の情報誌 T2 Vol.101／2017年1月発行より抜粋